
嘆き

風唄

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘆き

【Nコード】

N9847F

【作者名】

風唄

【あらすじ】

詩です。自分が感じているようなことを書き綴ってみました。すごく短いのが三遍あります。

私の目の前には真っ白なキャンパスが広がっているのに。

私の右手にはHBの鉛筆がしっかり握られているのに。

いつまで経っても私は紙に鉛を載せる。

それだけのことが出来ないでいる。

心の中には出来上がった景色が広がっているのに。

指先まで来ると急に色褪せ力を無くす。

嗚呼、私に一欠けらの才があれば…

嗚呼、私にもう少し時間があれば…

今日も私はキャンパスの前に立ち、ただただ嘆き続けている。

自分が努力をしていないことに、気が付かないふりをしながら…

毎日決まった生活リズムで。

パターン化された日常を送る。

本当にこれでいいのかと。

悩み続け日が暮れる。

新しい一步を踏み出したいのに。

変化を恐れ踏み出せない。

今の足場が無くなるのが。

恐くて怖くて踏み出せない。

こうして月日は過ぎ去って行き。

いつか骨になるんだろうか。

これを是として生きることが。

本当に正しいことなのだろうか。

それがわかるのはおそらく一度。

息を引き取る間際だろう。

だから私は悩み続ける。

そうして今日も日が暮れる。

3

この世界が真っ白だと信じていたのはいつまでだろうか。

この世界が真っ白ではないと考え始めたのはいつからだろうか。

ねえ、アナタは今も心の底から笑えていますか？

ねえ、ワタシは今も心の底から笑えていますか？

ねえ、誰か…この真っ暗な世界に道標を…一筋の光を……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9847f/>

嘆き

2011年1月3日23時08分発行